

公益財団法人 日本テニス協会

アニユアルレポート2025

JTA Annual Report 2025





公益財団法人 日本テニス協会
会長 深澤 祐二

ご挨拶

このたび、2025年4月1日から公益財団法人日本テニス協会の会長に就任した深澤祐二です。この場をお借りして、就任のご挨拶を申し上げます。

本協会は、生涯スポーツ、競技スポーツ、観るスポーツとしてのテニスの振興を通じて、国民の皆さまの健全な心身の発達と国際親善に寄与することを活動目的とした公益法人です。

「テニスを通じて、人と人、国と国とをつなぎ、その素晴らしさを伝え、すべての人が健やかで幸福な人生を享受できるような、多様性と調和のある社会の実現に貢献する」という理念のもと、プレーヤーの育成・強化、テニスの普及に努め、日本テニスの発展に多面的な貢献を行っております。

本協会で推進している普及・発掘・育成・強化・継承の重要施策が「中長期強化育成プラン2022-2032」です。過去の約10年を振り返ると、競技テニスにおいて、最も著しく日本人選手の競技力・成績の向上がみられた期間でありましたが、この期間を経て、次に日本の競技テニスを目指すべきところは、テニス先進国への変貌であると考えております。その実現に向け、恒久的に世界ランクTOP100にランクし応援されるプレーヤーの育成（チャンピオン教育による人間力向上を含む）・強化、更にその先のTOP50へとつながる環境の構築に注力するとともに、日本全国のさまざまなルートから世界の上位を目指すことができる環境づくりとしての「富士山プロジェクト」や国内における国際大会の誘致拡大、ハードコート化・レッドクレーコート化の推進及びインドアコートの充実などにも取り組んでいきます。

一方で、日本の人口減少も影響し、テニス人口が減少していることは事実であり、その拡大に向けての取り組みにも力を入れています。一例として、ネット型ゲーム「テニピン」や、子ども・初心者向けのプログラムである「TENNIS PLAY & STAY」などを通じ、テニスに触れていただく機会を増やすべく、全国各地域でのイベントの実施や地域で普及に取り組んでいただいている皆さまとの話し合いを重ねています。またJTAマイナンバー（JPIN）プロジェクトのシステム構築により、ジュニアからベテランまで1つの選手登録番号を使って、選手の皆さんにとっても分かりやすい選手登録制度の再構築などにも取り組んでいます。

また、これらの協会事業活動を行ううえでベースとなるのが、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係の構築だと考えております。そのためにも、これまで以上に多く皆さんに支えていただけるような組織づくりを目指し、ガバナンスやコンプライアンスの強化、スポーツインテグリティの確保にも引き続き注力して参ります。

私は日本を元気にする、地方を元気にするためには、スポーツが大きな力を持つと確信しています。テニスは世界中の方々に愛され、広く、年齢や性別等を問わず楽しめるスポーツです。私は、テニスの活性化を通じて、日本を、地方を元気にしていきたいと考えております。全国のテニス爱好者の皆さん、選手、スポンサー、メディア、各種テニス団体、国、監督省庁、そして内外スポーツ統括団体をはじめ、本協会とともに歩んでくださっている皆さんに対し、引き続き、本協会の活動に対するご理解とご支援をお願い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

(2025年4月1日記)

環境を守る
スポーツを守る
未来を守る

TEAM JAPAN!

来たときよりもきれいに！



公益財団法人日本オリンピック委員会
Japanese Olympic Committee

2024年度の日本テニスを振り返る

【パリ五輪には6選手が出場、パリ・パラリンピックでは上地結衣と小田凱人が金メダル】

パリ五輪のテニスは2024年7月～8月、ローランギャロスで行われ、日本からは男子の錦織圭、ダニエル太郎、女子の大坂なおみ、内島萌夏、柴原瑛菜、青山修子が出場した。女子シングルスでは、大坂がA.ケルバー（ドイツ）に5-7、3-6で、内島はE.スピトリナ（ウクライナ）に2-6、1-6で敗れ、ともに1回戦敗退。男子シングルスでも錦織がJ.ドレーパー（英国）に1-6、4-6、ダニエルはC.ルード（ノルウェー）に5-7、1-6と、ともに1回戦で敗れた。女子ダブルスでは青山／柴原が初戦を突破したが、2回戦でB.クレイチコバ／K.シニアコバ（チェコ）に5-7、4-6で敗退。男子ダブルスの錦織／ダニエルは1回戦でD.エバンス／A.マリー（英国）に6-2、6-7（5）、[9-11]と逆転負けした。混合ダブルスでは、柴原／錦織が準々決勝でシニアコバ／T.マハツ（チェコ）に5-7、2-6で敗れた。

パリ・パラリンピックの車いすテニスは24年8月～9月に行われた。女子シングルスでは上地結衣が決勝でD.デフロート（オランダ）に4-6、6-3、6-4と逆転勝ちして、この種目で日本に初めての金メダルをもたらした。上地は田中愛美と組んだ女子ダブルスでも決勝でオランダを破り単複2冠を達成した。男子シングルス決勝では、18歳の小田凱人がA.ヒューエット（英国）に6-2、4-6、7-5と競り勝って初優勝。日本勢としては2大会連続4度目の金メダル獲得だった。男子ダブルスでは三木拓也／小田が決勝で英国に敗れて銀メダルだった。



パリ五輪にシングルスで出場した内島萌夏、大坂なおみ、錦織圭、ダニエル太郎

【BJK杯では2年連続のファイナル出場】

ビリー・ジーン・キング杯では、24年4月のファイナル予選でカザフスタンを破った日本が、同年11月にスペインで行われたファイナル（シングルス2試合、ダブルス1試合）に初めて出場した。日本は1回戦でルーマニアと対戦。シングルスで日比野菜緒はA.ボグダンに敗れたが、柴原瑛菜がJ.クリスティアンを破って1勝1敗とすると、最終戦のダブルスで青山修子／穂積絵莉がE.ルゼ／M.ニクレスクを6-1、7-5で下して、2勝1敗で準々決勝に進んだ。準々決勝のイタリア戦では、シングルスで柴原が世界ランク54位のE.コッチャレットに3-6、6-4、6-4と逆転勝ちしたが、内島萌夏は世界4位のJ.パオリーニに3-6、4-6で敗れた。勝敗のかかったダブルスでは、青山／柴原がパリ五輪金メダルのS.エラニ／パオリーニに3-6、4-6で敗れて準決勝進出はならなかった。ファイナルはイタリアが優勝した。

25年BJK杯の日本は、4月に東京・有明で行われたファイナル予選に挑んだ。18チームが6グループに分かれてリーグ戦を実施、1位がファイナルに進むというフォーマット変更があり、日本はホームにルーマニアとカナダを迎えてグループAを戦った。日本は初戦のルーマニア戦では、シングルスの柴原、内島、ダブルスでも青山／穂積が勝って、3-0でルーマニアを下した。続くカナダ戦では、シングルスでV.エムボコに柴原が惜敗したが、内島がM.スタキュジッチにストレート勝ちすると、ダブルスでは青山／柴原がK.クロス／R.マリノに競り勝った。日本は2連勝でグループAの1位を決めて、9月に中国で開催されるファイナルに進んだ。



2024年ファイナルに進出したBJK杯チーム



2025年ファイナル進出を決めたBJK杯チーム

【デ杯ではファイナル予選2回戦に進出】

デ杯の日本は24年9月、東京・有明にコロンビアを迎えてワールドグループ1部（シングルス4試合、ダブルス1試合）を戦った。日本は第1日のシングルスで西岡良仁がA.ソリアノバレラにストレート勝ちすると、錦織圭も相手ナンバーワンのN.メヒアを下して2連勝。第2日は第3試合のダブルスでは望月慎太郎／綿貫陽介が逆転負けしたが、第4試合で西岡がメヒアを破って対戦の勝利を決めた。コロンビアを3勝1敗で下した日本は、25年のデ杯ファイナル予選に進出した。

ファイナル予選1回戦は英国との対戦となり、25年1月31日と2月1日にブルボンビーンズドーム（兵庫県三木市）で行われた。第1日はシングルス第1試合で、西岡がB.ハリスを7-5、6-1で破り先勝したが、第2試合で錦織がJ.ファーンリーに3-6、3-6で敗れて、1勝1敗と星を分けた。第2日は第3試合のダブルスで綿貫／柚木武がJ.ソールズベリー／N.スクプスキに6-7(4)、6-7(3)と惜敗して、英国に王手をかけられた。しかし、第4試合では西岡が6-3、7-6(0)でファーンリーとのエース対決を制すと、最終戦で錦織もハリスを6-2、6-3で下した。英国に3勝2敗と逆転勝ちした日本はファイナル進出チームが決まる9月のファイナル予選2回戦に進出した。



コロンビアに勝利したデ杯チーム



英国に勝利したデ杯チーム

【内島萌夏はトップ 100 に定着、園部八奏は全豪ジュニアで優勝】

日本勢の女子では、女児を出産して 24 年に復帰した大坂なおみは完全復活の途上だった。24 年全仏では 2 回戦で優勝した I. シフィオンテク（ポーランド）と対戦、最終セットでマッチポイントを握るなど大接戦を演じて、6-7(1)、6-1、5-7 と惜しくも敗れた。25 年の初戦となった ABC クラシック（ニュージーランド）では決勝に進むと、全豪で 3 回戦進出、マイアミ・オープン（米国）でもシード選手を破り 4 回戦（ベスト 16）に進んだ。

24 年全仏の直前に世界ランク 100 位を切った内島萌夏はトップ 100 に定着した。24 年全仏は予選から出場して本戦に進むと、1 回戦でスペイン選手を破って四大大会初勝利を挙げた。温ブルドンは第 10 シードの O. ジャブール（チュニジア）に 1 回戦で敗れたが、全米、25 年全豪と 2 回戦に進出すると、WTA 1000 大会のマドリード・オープン（スペイン）では第 3 シードの J. ペグラ（米国）を破るなどシード勢を連破して、ベスト 8 に進出した。

24 年東レ・パンパシフィックオープン（東京）ダブルスでは、青山修子／穂積絵莉のペアが準々決勝で第 4 シード、準決勝では第 1 シードを破って勝ち上がると、決勝でも柴原瑛菜／L. ジーゲムント（ドイツ）を 6-4、7-6(3) で破り優勝した。柴原は 24 年全米でシングルス予選を突破すると、本戦では 2 回戦に進出した。

25 年全豪のジュニア部門では、園部八奏が女子シングルスで優勝した。四大大会のジュニア女子シングルスを日本勢が制したのは、1969 年温ブルドンの沢松和子以来、69 年ぶりのことだった。

また、車いすテニスでは上地結衣が 25 年全豪女子シングルスで 5 年ぶり 3 度目の優勝を果たして、18 年 6 月以来の世界ランク 1 位に返り咲いた。

【西岡良仁は 3 度目のツアータイトル獲得】

男子では西岡良仁が 24 年 7 月にアトランタ・オープン（米国）シングルスで、F. ティアフォー（米国）を破って優勝した。西岡は 22 年韓国オープンに続く 3 度目のツアータイトルだった。西岡はデ杯でも日本チームをけん引する活躍を見せたが、25 年 2 月のデ杯後、左肩に痛みが出た。その後、腰痛もでて調子を落とした。

錦織圭は 24 年全仏で 2 回戦に進んだ。錦織の四大大会出場は 21 年全米以来のことだった。ただ、2 回戦では右肩の状態が悪化して途中棄権した。その後も全米を欠場するなど故障との闘いを続けた錦織は、25 年シーズンインの香港オープンで 6 年ぶりにツアーフinals に進出。4 月のマドリード・オープン（スペイン）では、1 回戦の白星でアジア勢初のツアーレベル 450 勝を達成した。

車いすテニスでは小田凱人が 24 年全仏男子シングルスで大会 2 連覇を果たした。

【ジャパンオープン、男子では錦織圭が8強、女子では伊藤あおいが4強入り】

木下グループジャパンオープンの男子大会は24年9月に東京・有明で開催された。シングルスでは6年ぶりに出場した錦織圭がベスト8に入った。錦織は1回戦でM.チリッチ（クロアチア）を6-4、3-6、6-3で破ると、2回戦ではJ.トンプソン（豪州）をストレートで下した。しかし、準々決勝では第6シードで世界14位のH.ルネ（デンマーク）に6-3、2-6、5-7で逆転負けした。西岡良仁は1回戦で世界21位のF.オジエアリアシム（カナダ）を7-6(5)、3-6、7-6(5)と大接戦で破ったが、2回戦でルネに2-6、4-6で敗れた。前年大会でベスト4に入った望月慎太郎は1回戦でU.アンベール（フランス）に1-6、2-6と完敗した。決勝では20歳のA.フィスがアンベールとのフランス勢対決を5-7、7-6(6)、6-3と逆転で制して優勝した。車いすテニス・シングルス決勝は、小田凱人がG.フェルナンデス（アルゼンチン）を6-3、6-4で下して2年連続優勝を飾った。

木下グループジャパンオープン女子大会は24年10月にモリタテニスセンター鞠（大阪）で行われた。シングルスでは、予選を勝ち上がった伊藤あおいが1回戦で20年全豪女王のS.ケニン（米国）を6-2、3-6、7-5で破ると、2回戦でも第8シードのE.コッチャレット（イタリア）に6-4、6-3と快勝。硬軟織り交ぜた変則スタイルの伊藤は準々決勝でもE.リス（ドイツ）に6-7(8)、6-2、6-3と逆転勝ちして4強に進んだ。しかし、強風の中で行われた準決勝ではK.ビレル（豪州）に4-6、3-6で敗れて、伊藤の快進撃が終わった。18歳の齋藤咲良も1回戦でJ.ポウサスマネイロ（スペイン）を6-3、6-2で破ってWTAツアーで初勝利を挙げた。2回戦でも世界48位で第5シードのE.アワネシャン（アルメニア）を7-6(2)、6-4で下したが、準々決勝でビレルに5-7、4-6と競り負けた。内島萌夏、柴原瑛菜、本玉真唯は1回戦を突破できなかった。ダブルスでは柴原/L.ジーゲムント（ドイツ）が優勝した。車いすテニスのシングルスでは上地結衣が2連覇を達成した。



錦織圭はJO男子大会で8強入り



JO女子大会で4強入りした伊藤あおい

【石井さやかと今村昌倫が全日本初優勝】

三菱電機ビルソリューションズ全日本選手権は24年10月、東京・有明で行われた。女子シングルスでは10代のプレーヤーが輝いた。第3シードに入った19歳の石井さやかは、準決勝で3年連続ベスト4に進んだ第2シードの伊藤あおいを6-4、6-3で破ると、決勝では18歳の第1シード、齋藤咲良に6-2、3-6、6-4と競り勝って初優勝を飾った。10代選手の決勝対決は1983年以来41年ぶりのことだった。

男子シングルスは24年シーズンでの引退を表明していた36歳の伊藤竜馬が大会を盛り上げた。13年、18年と優勝している伊藤は、ノーシードながらシード勢3選手を破って準決勝まで勝ち上がった。しかし、連戦で古傷の左ひざが悲鳴を挙げ、準決勝で第3シードの磯村志に敗れた。決勝では第4シードの今村昌倫が磯村を7-6(6)、6-4で破って天皇杯を獲得した。25歳の今村は4年ぶり2度目の決勝で初優勝。

女子ダブルスはノーシードの林恵里奈／森崎可南子が優勝した。林はペアを替えて2度目、森崎もペアを替えて3度目の優勝だった。男子ダブルスは第1シードの柚木武／渡邊聖太が制した。渡邊はペアを替えての連覇だった。

(年齢、世界ランクは当時)

2024年度事業報告

【I 組織運営と事業活動】

大正11（1922）年に日本庭球協会として発足した本会は、令和5（2023）年度に創立101年の新たな節目を迎えると共に、専務理事以下の役員、各専門委員会・専門部の長や委員、部員の多くも新任となり、次代を創るにふさわしい新たな体制となりました。

そして、私たちは次の100年に向けた歩みを正しく導くものとするために作成した、新しい理念・ビジョン・行動指針にもとづき、この1年を歩んできました。

そのうえで、本会会長の掲げる「健全性・収益性・成長性を重視したバランス運営」を実行しました。「健全性」とは、①安全と健康 ②インテグリティー（誠実さ） ③コンプライアンス（倫理遵法） ④ガバナンス（健全な自己管理）を確保し実行することであり、「収益性」とは、公益性を考えつつも本会、ひいては日本のテニス界を守るために安定的な収益源を確保し続けることであり、「成長性」とは、次代の日本テニス界を支える人材を育てるためにすそ野を広げ（普及）、育み（育成）、世界に送り出す（強化）ことに他なりません。上記を踏まえ、令和5年度に実行した主な活動をいくつか述べさせていただきます。

第一は、未曾有のコロナ禍を経験した後に再開した各主催大会を、いかに以前の状態に戻し、超えていくかを追求しました。これは、新しく始めた主催大会も同様です。私たちも含め、支えてくださる方々の状況が以前とは変化していることもあり、ステークホルダーの皆さまと様々に対話しながら、進めてきました。

さらに、国内で開催される全ての大会において、安全・安心にプレーし、観戦していただくための諸施策に取り組みました。特に夏の暑熱対策は「熱中症予防JTA 公式テニストーナメント開催ガイドライン」を作成し、大会を運営する幅広い方々の指針となるよう、努めました。

第二は、痛んだ協会財政を立て直し、日本テニス界の未来に向けた資金の確保を行ったことです。各事業においては価値の向上による収入の増加と、経費の削減を継続して行い、常に収支が良好な状態を確保できるよう努めました。また、各種登録料の見直しや寄附募集活動の拡大による財政基盤の拡充も、行いました。

第三は、「子供たちが憧れる日本代表」の輩出を目指し、国を代表する「誇り」「敬意」「志」にあふれたプレーヤーを育成するための様々な施策を網羅した、「富士山プロジェクト（中長期強化育成プラン2022-2032）」を推進したことです。

富士山が我が国の誰からも愛され、誰もが憧れ山頂を目指すシンボルでありながら、多様な登頂ルートが存在するように、トッププレーヤーの育成にも様々なパスウェイが存在します。私たちは、近年目覚ましい成長を遂げ、世界で活躍する日本人選手たちを通して学んだ知見を活かし、新たな若手プレーヤーを常に世界ランキング100位以内に送り込むための活動を、進めました。

第四は、テニピン、TENNIS PLAY & STAYをツールとし、子供たちをテニスに誘う活動を行つてきましたが、その過程で、テニスを始めた子供たちの離脱を防ぐ必要性にも気づいたことです。新たな普及戦略を確立し、日本中学校体育連盟への加盟活動とあわせ、小学校年代の子供たちが、離脱することなく中学校年代へ移行する仕組みを構築していくとともに、文部科学省が推進している「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」についても、その動きを注視しながら対応を取りました。

第五は、多様なテニスの普及・発展を目指し、車いすテニス、ブラインドテニス、デフテニス、立位テニス、スペシャルオリンピックテニス競技等、各団体との交流を図ったことです。さらに、この活動に興味を持ってくださっている企業様をはじめとした方々とも、積極的なコミュニケーションを取りました。

また、ジェンダー平等を推進するために、ガバナンスコードにもとづいた活動を利用し、本会、地域、都道府県テニス協会役員への女性登用の拡大を、働きかけてきました。そして「LGBTQ+」「SOGI」についても様々な部門で各種課題への討議を開始し、外部講師を招聘した研修会も実施し、知識の向上に努めました。

【Ⅱ 事業内容】

本会は、定款 第4条に定めた公益目的を達成するため、下記の事業を行いました。

- (1) テニスの普及及び指導・育成
- (2) テニス選手の競技力向上
- (3) 国内・国際テニス競技会の主催及び国内で開催されるテニス競技会の後援・公認
- (4) 国際テニス競技会への代表者の選考、派遣及び外国からの選手の招聘
- (5) テニスに関する公認指導員及び審判員の養成及び資格認定
- (6) テニス選手の登録、ランキングの管理・運営
- (7) テニス競技の健全な発展のための基盤及び環境の整備
- (8) テニス競技の普及・振興のための調査・研究及び広報活動
- (9) 日本テニス界を代表して、内外のテニス団体・スポーツ関連団体との交流、協力及び支援
- (10) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

2024年度活動記録

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	海外
4月	9日 常務理事会 12～13日 MUFGJr (名古屋) 12～13日 BJK杯ファイナル予選 ・カザフスタン戦 (東京)	9～13日 MUFGJr (名古屋)	3月18～23日 ワールドJr女子AO予選 (マレーシア)
		12～13日 BJK杯ファイナル予選 ・カザフスタン戦 (東京)	3月25～30日 ワールドJr男子AO予選 (マレーシア)
5月	15日 常務理事会 23日 通常理事会・委員長会議	16～19日 全国選抜Jr (柏)	13～18日 BJK杯JrAO予選 (カザフスタン)
			20～25日 デ杯JrAO予選 (カザフスタン)
6月	12日 評議員会・臨時理事会 20日 常務理事会		26日～6月9日 全仏オープン
7月	18日 常務理事会	19～21日 全日本都市対抗 (滋賀)	1～14日 ウィンブルドン選手権
			27日～8月4日 パリ五輪テニス競技 (フランス)
8月	16日 常務理事会	1～8日 高校総体 (大分)	5～10日 ワールドJr決勝大会 (チェコ)
		7～11日 全国小学生 (東京)	26日～9月8日 全米オープン
9月	11日 常務理事会	12～18日 全日本学生 (四日市)	
		18～21日 全国中学生 (富山)	
10月	18日 常務理事会	21～23日 全国高専 (北海道)	
		23～25日 ビジネスパレB大会 (四日市)	
11月	26～9月6日 全日本Jr (東京)	26～9月6日 全日本Jr (東京)	
12月	11日 常務理事会	9～13日 全日本東日本大会 (三木)	
		9～13日 全日本西日本大会 (三木)	
1月	14～15日 デ杯ファイナル予選 ・コロンビア戦 (東京)	14～15日 デ杯ファイナル予選 ・コロンビア戦 (東京)	
		21～24日 国スポテニス競技 (佐賀)	
2月	23～29日 世界スーパーJr (大阪)	23～29日 世界スーパーJr (大阪)	
		23日ほか テニスの日 (東京ほか)	
3月	25～10月1日 ジャパンオープン 男子大会 (東京)	25～10月1日 ジャパンオープン 男子大会 (東京)	
		28～10月1日 スポーツマスターズ (長崎)	

月	主な業務活動	主要イベント	
		国内	海外
10月	10日 常務理事会 13日 常務理事会	1~6日 ジャパンオープンJr (三木) 1~26日 全日本ペテラン (福岡・大阪) 4~6日 全国実業団A大会 (広島) 4~6日 全日本ビーチテニス選手権 (神戸) 4~13日 全日本選手権 (東京) 14~20日 ジャパンオープン女子大会 (大阪) 18~20日 RSK全国選抜Jr (岡山) 19~22日 ねんりんピック (鳥取) 21~27日 東レPPO (東京) 29日~11月3日 U-15全国選抜Jr 中牟田杯 (福岡) 30日~11月3日 全日本大学王座 (松山)	
11月	17日 臨時理事会 20日 常務理事会	4~17日 Road to AO Jr (四日市) 12~14日 全国レディース全国決勝大会 (昭島) 18~24日 高崎国際オープン (高崎) 21~24日 全日本Jr選抜室内 (三木) 25日~12月1日 四日市チャレンジャー (四日市)	2~9日 WTAファイナル (サウジアラビア) 11~17日 デ杯Jr／BJK杯Jr決勝大会 (トルコ) 13~20日 BJK杯ファイナル (スペイン) 10~17日 ATPファイナル (イタリア) 19~24日 デ杯ファイナル (スペイン)
12月	10日 常務理事会 17日 臨時理事会	5~8日 日本リーグ1stステージ (横浜・三木) 9~15日 全日本学生室内 (三木)	
1月	14日 常務理事会 17日 臨時理事会 (決議の省略)	22~26日 日本リーグ2ndステージ (横浜・三木) 31日~2月1日 デ杯ファイナル予選 1回戦・英国戦 (三木)	12~26日 全豪オープン
2月	12日 常務理事会	14~16日 日本リーグ決勝トーナメント (東京)	
3月	7日 常務理事会 14日 通常理事会 21日 臨時評議員会・臨時理事会	5~16日 全日本室内 (京都) 20~26日 全国選抜高校 (福岡)	

2024年度表彰者リスト

種類	推薦者	表彰者
個人功労賞	JTA総務部	藤本 敏則
		栗山 雅則
		川合 幸雄
		越善 隆
		菊沢 裕
		宮尾 英俊
		安田 勉
		福島 敏夫
	北海道	近藤 真章
		星野 哲夫
	関東	群馬県 佐藤 浩
		山梨県 山下 博美
		栃木県 神山 康洋
		東京都 鈴木 晃郎
	北信越	福井県 吉田 洋子
		長野県 戸田 英利
	東海	愛知県 石川 清
		愛知県 田中 由布子
		愛知県 岡本 秀貴
	関西	滋賀県 菅原 万智子
		大阪府 藤原 秀一
		忠田 淑子
		和歌山県 藤田 泰寛
		畠中 正
	中国	兵庫県 山崎 章
		広島県 日域 淳一郎
		岡山県 平松 敏男
	九州	福岡県 西 豊子
	日本テニス事業協会	
	JTA審判委員会（ボールパーソン）	
	JTA審判委員会（ラインパーソン）	
	JTA各委員会（監督、コーチ、トレーナー、メディカルドクター）	
	今井 開斗	
	野田 達也	
	溝口 美貴	
	藤本 季朱子	
	藤本 幸久	
	北村 哲	
優秀団体賞	JTA総務部	湘南工科大学付属高等学校
		相生学院高等学校
		橋本総業ホールディングス
最優秀団体賞	JTA総務部	山陽学園中学校
特別感謝状	JTA総務部	ヨネックス株式会社
		ミズノ株式会社
	JTA寄附金プロジェクト	長島 徹

2024年度決算概要

経常増減の部

経常収益

基本財産運用益	2,384,691 (0.08%)
受取公認推薦料	40,902,186 (1.43%)
受取登録料	75,499,014 (2.64%)
事業収益	2,232,022,027 (78.03%)
受取補助金等	471,312,297 (16.48%)
受取寄附金	34,950,432 (1.22%)
雑収益	3,340,115 (0.12%)
経常収益計	2,860,410,762

経常費用

公益目的事業費	2,851,821,361 (98.22%)
管理費	51,646,186 (1.78%)
経常費用計	2,903,467,547

評価損益等調整前当期経常増減額 △ 43,056,785

評価損益等計 0

当期経常増減額 △ 43,056,785

当期一般正味財産増減額 △ 43,056,785

一般正味財産期首残高 223,104,178

一般正味財産期末残高 180,047,393

指定正味財産増減の部

指定正味財産期首残高 240,718,685

指定正味財産期末残高 252,340,727

資産合計 1,152,225,318

負債合計 701,037,630

正味財産合計 451,187,688

正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

スポーツ振興くじ助成金事業特別会計

科 目	(単位: 円)
	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	13,960,200
受取参加料	13,960,200
受取補助金等	31,237,000
受取助成金	31,237,000
他会計からの繰入額	2,504,351
他会計からの繰入額	2,504,351
経常収益計	47,701,551
(2) 経常費用	
事業費	47,701,551
給料手当	616,000
諸謝金	16,098,010
スタッフ経費	694,090
会議費	125,100
旅費交通費	17,319,716
海外遠征費	384,100
通信費	63,522
消耗品費	3,524,238
賃借料	3,652,380
保険料	567,146
委託費	3,411,100
雑費	1,246,149
経常費用計	47,701,551
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

スポーツ振興基金助成金事業特別会計

科 目	(単位: 円)
	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	172,219,168
受取協賛金	137,232,187
受取参加料	263,904
受取広告料	0
受取入場料	13,134,500
出店放映等収入	20,106,117
雑収入	1,482,460
受取補助金等	12,383,005
受取補助金	2,383,005
受取助成金	10,000,000
他会計からの繰入額	25,078,582
他会計からの繰入額	25,078,582
経常収益計	209,680,755
(2) 経常費用	
事業費	209,680,755
給料手当	6,812,840
諸謝金	2,801,128
スタッフ経費	4,310,441
会議費	3,000
旅費交通費	1,260,978
海外遠征費	1,825,159
通信費	321,556
消耗品費	420,497
出版印刷費	2,099,335
賃借料	7,507,168
保険料	413,860
租税公課	2,000
大会公認料	3,945,480
広報費	2,505,900
賞金	41,407,665
表彰費	311,740
選手経費	35,396,521
施設費	47,975,805
委託費	47,071,050
雑費	3,288,632
*雑損失	0
経常費用計	209,680,755
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

日本オリンピック委員会委託事業特別会計

(単位：円)

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
事業収益	451,428
受取負担金	282,000
雑収入	169,428
受取補助金等	91,770,774
受取補助金	10,169,375
受取委託金	1,914,753
受取助成金	79,686,646
他会計からの繰入額	24,208,956
他会計からの繰出額	24,208,956
経常収益計	116,431,158
(2) 経常費用	
事業費	116,431,158
給料手当	37,000
諸謝金	11,123,000
スタッフ経費	92,752
旅費交通費	13,154,777
海外遠征費	80,447,413
通信費	934,809
消耗品費	1,818,689
賃借料	406,850
保険料	1,548,837
委託費	2,233,390
雑費	4,533,641
仮払経費	100,000
経常費用計	116,431,158
評価損益等調整前当期経常増減額	0
評価損益等計	0
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	0
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	0

2025年度事業方針

【理念】

わたしたちはテニスを通じて、人と人、国と国とをつなぎ、その素晴らしさを伝え、すべての人が健やかで幸福な人生を享受できるような、多様性と調和のある社会の実現に貢献します

【ビジョン】

- すべての人の豊かなスポーツライフに寄与します
- 国内外の人々や組織と協力し、テニスの発展に尽力します
- 世界レベルの選手を一人でも多く輩出し、夢と感動を届けます
- 健全で安定した協会運営を行います
- 公正で差別がなく、ジェンダー平等に基づき、誰もが活躍できる組織を目指します

【行動指針】

- フェア：常に公平、公正、誠実な姿勢を貫きます
- グローバル：世界的視野を持って行動し、海外の関係者と積極的に交流します
- チームワーク：活発なコミュニケーションをはかり、互いを尊重し、力を合わせて前進します
- 共創：ステークホルダーの声に耳を傾け、共にテニスの未来を築きます
- 挑戦：歴史と伝統を重んじつつ、変化を恐れずチャレンジし続けます
- 感謝：いつも感謝を忘れず、テニスの持つ力を信じ、愛し、伝え続けます

私たちが掲げる【理念】【ビジョン】【行動指針】を実現し、我が国テニスの裾野を広げ未来を獲得するための諸活動を行います。その代表的なものを下記に紹介します。

「子供たちが憧れる日本代表」の輩出を目指し、国を代表する「誇り」「敬意」「志」にあふれたプレーヤーを育成するための諸施策を網羅した「富士山プロジェクト（中長期強化育成プラン2022-2032）」を引き続き推進します。富士山が我が国の誰からも愛され、誰もが憧れ山頂を目指すシンボルでありながら、多様な登頂ルートが存在するように、トッププレーヤーの育成にも様々なパスウェイが存在します。私たちは、近年目覚ましい成長を遂げ、世界で活躍する日本人選手たちを通して学んだ知見を活かし、新たな若手プレーヤーを常に世界ランキング100位以内に送り込むための活動を、皆さまからのご支援と、多様な育成機関との連携により継続します。

観るスポーツとしてのテニスの楽しさをファンの皆さんに共有いただくために、本会は様々な国際・国内大会を主催・後援・公認しています。アジアで最も古い歴史を持つATP500大会である木下グループジャパンオープンは、今年も女子のWTA250大会、男女の車いすテニス大会を含しながら、世界最高峰のプレーをファンの皆さんにお届けしていきます。また、栄誉ある賜杯をかけた国内トッププレーヤーたちの熱き戦いの場である全日本選手権は、今年、記念すべき第100回大会を迎えます。そして、世界で戦う選手たちの迫力をより身近に感じていただくべく、四日市や高崎をはじめとした全国各地で、チャレンジ大会を開催していきます。さらに、テニス日本リーグや、国民スポーツ大会テニス競技会の開催を通じ、高い技能を持つ選手たちが、所属企業や郷土の誇りと名誉をかけ戦う姿も、ぜひ応援していただきたいと思います。

テニス人口の裾野拡大のためには、テニピンとTENNIS PLAY & STAYを通じ、子供たちがテニスに触れ、親しみ、成長と共に次のステージへと進んでもらうことが鍵であると考えており、引き続き活動を行います。そして、伸び盛りの子供たちが思う存分その力を発揮し、ゆくゆくは世界に羽ばたいていく場となる様々なジュニア大会を開催します。また、生涯スポーツとしてテニスを楽しんでいただくために、ベテランテニス大会を幅広い年齢層に開催し、加えて、幅広い年代や階層の多様なニーズに応え得る指導者、審判員、トレーナーを、多種多様なプログラムを用いて育成することに努めます。また、地域メディカルサポートドクターボードの整備とメディカルセミナーの開催により、テニス競技に造詣の深いドクターの確保に努めます。

健全で安定した協会運営を行うために、確固たる財政基盤の確立は継続した課題となっています。本会の持つ様々な価値をさらに高めたうえで、それを適切に企業様に評価いただき協賛を得る活動へのリソース投入を拡大し、不断の支出削減に向けた努力も継続していきます。また、ジュニアから一般、そしてベテランへと、同じ登録番号で一生涯、テニスを楽しんでいただくための「JTAマイナンバー（JPIN）制度」導入に伴う各種登録料金の見直しにより、安定した収入の確保を図ると共に、地域・都道府県においてテニスの振興を図る資金を、各テニス協会への収入分配や助成金により供給していくことを検討します。

公平、公正で誠実な組織を維持するために、ガバナンスとコンプライアンスのより一層の強化と、ジェンダー平等、多様性の確保は必須です。本会は様々な規程類やシステムの整備によりこれらの実現を担保すると共に、各種研修会や事案発生時の積極的な情報共有により、本会内のみならず、本会の加盟団体である地域・都道府県テニス協会、本会の協力団体、その他の団体の皆さんと一緒にこの課題に対処していきます。

事業内容

本会は、定款 第4条に定める公益目的を達成するため、下記の事業を行います。

- (1) テニスの普及及び指導・育成
- (2) テニス選手の競技力向上
- (3) 国内・国際テニス競技会の主催及び国内で開催されるテニス競技会の後援・公認
- (4) 国際テニス競技会への代表者の選考、派遣及び外国からの選手の招聘
- (5) テニスに関する公認指導員及び審判員の養成及び資格認定
- (6) テニス選手の登録、ランキングの管理・運営
- (7) テニス競技の健全な発展のための基盤及び環境の整備
- (8) テニス競技の普及・振興のための調査・研究及び広報活動
- (9) 日本テニス界を代表して、内外のテニス団体・スポーツ関連団体との交流、協力及び支援
- (10) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

2025～2026年度役員名簿

会長	深澤 祐二	理事	西村 覚
副会長	川延 尚弘	理事	神尾 米
副会長	馬場 宏之	理事	松岡 修造
副会長	木下 信行	理事	井上 直子
専務理事	土橋 登志久	理事	伊達 公子
常務理事	坂井 利彰	理事	長野 宏美
常務理事	植田 実	理事	岡川 恵美子
常務理事	佐藤 雅治	理事	甘露寺 重房
常務理事	蒲生 清	理事	今井 茂樹
常務理事	大塚 由弥子	理事	大久保 範子
常務理事	井澤 信一	理事	手塚 玲美
常務理事	田中 由布子	理事	草野 満代
常務理事	福島 敏夫	監事	坂井 幸司
常務理事	堀川 映子	監事	鷲田 典之
常務理事	小手川 励人		関西テニス協会
			関東テニス協会

理事待遇

青木 弘／岡村 徳之／黒岩 睦雄／桜木 聖／増岡 洋志／上田 憲太郎／北村 哲／田島 孝彦／富岡 好平／相川 真智子

理事会推薦評議員

斗澤 由香子	フリースタイルスキー オリンピック
伊藤 リナ	公益財団法人日本オリンピック委員会
井原 多美	株式会社WOWOW
植野 恵子	一般社団法人大学スポーツ協会
細木 祐子	園田学園大学
藤沼 敏則	公益社団法人日本プロテニス協会
井上 礼美	日本女子テニス連盟
大久保 清一	公益社団法人日本テニス事業協会
田島 伸一	一般社団法人全日本学生テニス連盟
栗山 雅則	全日本学生庭球同好会連盟
門田 聖五	公益財団法人全国高等学校体育連盟 テニス専門部
河合 康典	一般社団法人全国高等専門学校連合会
	全国高等専門学校体育大会テニス競技専門部
齋藤 与志朗	全国中学校テニス連盟
畠山 雅史	全国専門学校テニス連盟
佐山 篤	日本車いすテニス協会
高津 良英	テニス用品会
山田 真幹	一般社団法人日本ビーチテニス連盟

地域協会推薦評議員

臼木 裕視子	北海道テニス協会
浅沼 道成	東北テニス協会
武井 亜由美	北信越テニス協会
坪井 啓子	関東テニス協会
木下 洋子	東海テニス協会
川合 幸雄	関西テニス協会
津島 則之	中国テニス協会
沖田 栄子	四国テニス協会
合瀬 武久	九州テニス協会

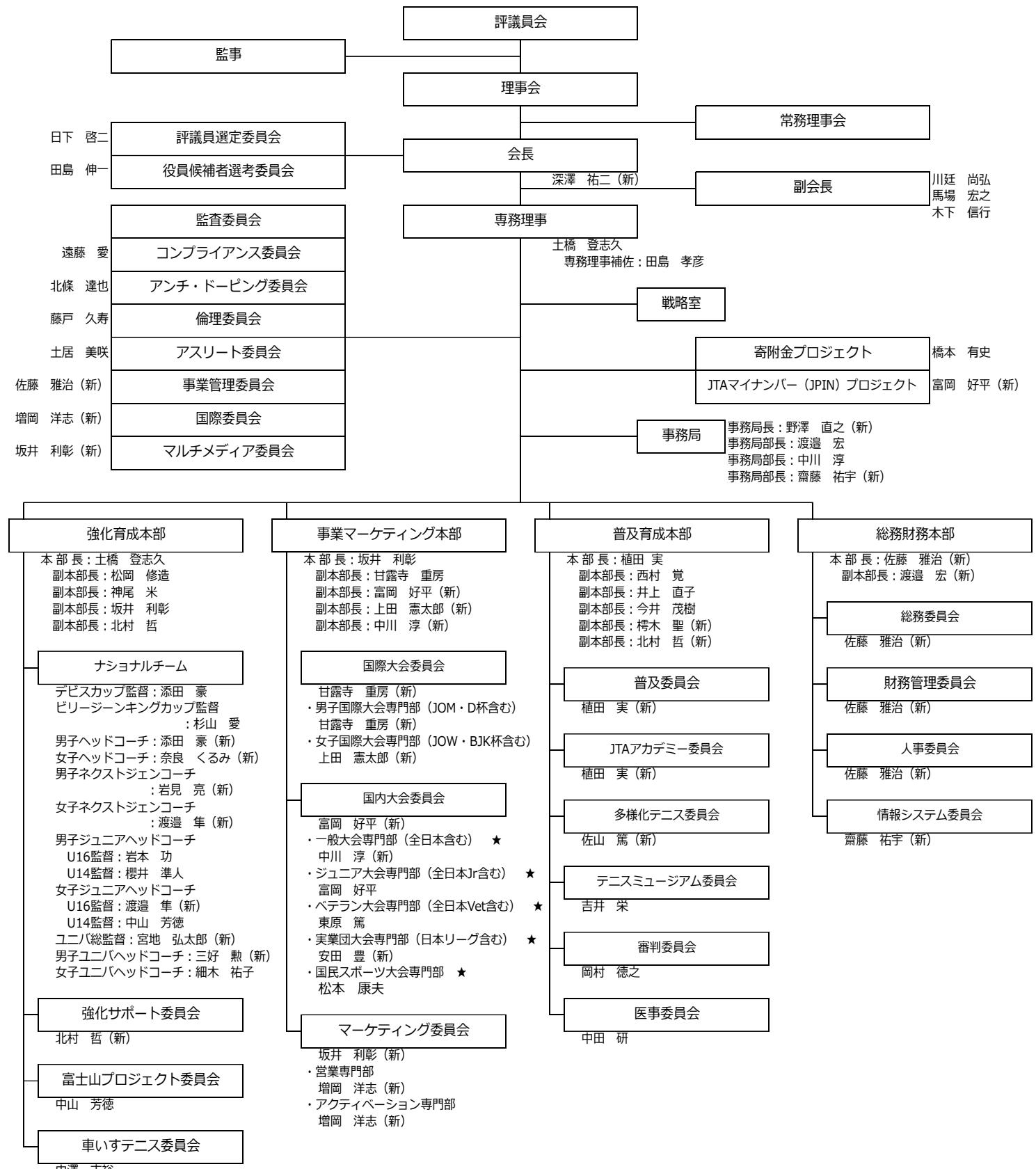
都道府県テニス協会推薦評議員

伊佐治 正章	北海道テニス協会	中村 博敏	群馬県テニス協会	杉本 和子	山口県テニス協会
越善 隆	青森県テニス協会	吉井 正光	栃木県テニス協会	西村 弥子	鳥取県テニス協会
片岡 富子	秋田県テニス協会	坂田 寛	茨城県テニス協会	土屋 高明	島根県テニス協会
藤島 努	岩手県テニス協会	小林 繁	山梨県テニス協会	北川 勝義	香川県テニス協会
松田 陽一	山形県テニス協会	青山 剛	静岡県テニス協会	井澤 義治	徳島県テニス協会
菅原 宏之	宮城県テニス協会	岩崎 順廣	岐阜県テニス協会	重松 建宏	愛媛県テニス協会
岩永 尚士	福島県テニス協会	宮尾 英俊	愛知県テニス協会	沖 宗右	高知県テニス協会
阿部 丈晴	新潟県テニス協会	金山 敦思	三重県テニス協会	上和田 茂	福岡県テニス協会
木下 悟志	長野県テニス協会	山森 祐輔	滋賀県テニス協会	二口 稔	熊本県テニス協会
杉森 清俊	富山県テニス協会	安田 勉	京都府テニス協会	毎熊 博	大分県テニス協会
菊沢 裕	石川県テニス協会	佐藤 博子	大阪府テニス協会	徳吉 剛	長崎県テニス協会
矢部 清隆	福井県テニス協会	京田 弘幸	兵庫県テニス協会	光富 美穂子	佐賀県テニス協会
横澤 規佐良	東京都テニス協会	阪中 潤	和歌山県テニス協会	大西 儀朋	鹿児島県テニス協会
日下 啓二	神奈川県テニス協会	大西 正信	奈良県テニス協会	秋田 義久	宮崎県テニス協会
岡田 茂夫	埼玉県テニス協会	東原 篤	岡山県テニス協会	玉城 智	沖縄県テニス協会
森 二郎	千葉県テニス協会	安東 善博	広島県テニス協会		

顧問

猪谷 千春／内山 勝／嶋岡 正充／武正 八重子／寺澤 辰麿／辻 靖雄

2025～2026年度組織編成及び役職者



★ 地域テニス協会推薦委員・部員を含む全国委員会・部会制度を採用

加盟団体・協力団体

【加盟団体】定款第7条団体

都道府県テニス協会

・47都道府県テニス協会

地域テニス協会

・9地域テニス協会

公益財団法人日本テニス協会（JTA）

【協力団体】定款第7条団体

全国テニス事業・専門団体

- ・(公社)日本プロテニス協会(JPTA)
- ・(公社)日本テニス事業協会(JTIA)

全国テニス競技団体

- ・日本女子テニス連盟(JLTF)
- ・(一社)日本車いすテニス協会(JWTA)
- ・(一社)日本ビーチテニス連盟(JFBT)

全国学校テニス団体

- ・(一社)全日本学生テニス連盟
- ・全日本学生庭球同好会連盟
- ・(公財)全国高等学校体育連盟テニス専門部
- ・全国高等専門学校体育大会テニス競技専門部
- ・全国中学校テニス連盟
- ・全国専門学校テニス連盟

【その他の団体】

全国テニス事業・専門団体

・テニス用品会

全国テニス愛好者団体

- ・日本シニアテニス連盟(JSTA)
- ・新日本スポーツ連盟全国テニス協会
- ・日本社会人テニス連盟(JICTF)
- ・官庁庭球連盟

全国テニス競技団体

・日本ハンディキャップテニス連盟(JHTA)

※本協会は国際テニス連盟（ITF）、アジアテニス連盟（ATF）、(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会に加盟

※本協会は(公社)日本プロテニス協会、(公社)日本テニス事業協会、日本女子テニス連盟、テニス用品会と日本テニス連合を結成

これからももっと、
私はスポーツを楽しむんだ。

卓球歴24年。バスケ歴1日。

卓球の200倍もの重さがあるボールは、
なかなか言うことを聞いてくれない。

それでも、体を動かすだけで気持ちがいい。
初対面でもあっという間に仲間になれる。
競技人生での楽しさとは違う、
スポーツの楽しさに出会えた。



スポーツを極める人も、楽しむ人も、
すべての人のために、
スポーツくじの収益は使われています。

スポーツくじ   

スポーツくじは、スポーツと人を育てる仕組み。

公益財団法人日本テニス協会が推奨する商品・公認するボール・推薦する会社

2025年12月1日現在

推 奨
大正製薬株式会社 リボビタン Sports

公 認 【ボール】			
住友ゴム工業株式会社（ダンロップ） DUNLOP FORT DUNLOP AUSTRALIAN OPEN DUNLOP ATP	ウイルソン US OPEN EXTRA DUTY	HEAD HEAD TOUR XT	PRINCE プリンスボール
ヨネックス TOUR PLATINUM	バボラ チームオールコート	テクニファイバー X-ONE	

推 薦
【ウェア】 ミズノ株式会社 ヨネックス株式会社 株式会社デサント 株式会社ユニクロ 【シューズ】 株式会社ニューバランスジャパン アシックスジャパン株式会社 【コート】 スポーツサーフェス株式会社 株式会社NIPPO 住友ゴム工業株式会社 積水樹脂株式会社 東レ・アムテックス株式会社 アストロスポーツ株式会社 前田道路株式会社 大嘉産業株式会社 泉州敷物株式会社 株式会社NKT 【ストリング】 株式会社ゴーセン 株式会社トアルソン ヨネックス株式会社 Babolat VS Japan株式会社 株式会社ラコステジャパン 株式会社キモニー 【ネット】 ティエヌネット株式会社 鐘屋産業株式会社 株式会社寺西喜商店 有限会社ミセキネット製作所 株式会社レイ高 鶴沢ネット株式会社 高須賀株式会社 豊貿易株式会社 【ラインテープ】 グラス・ファイバー工研株式会社 【低周波治療器】 丸菱産業株式会社

公益財団法人 日本テニス協会 Japan Tennis Association

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
Japan Sport Olympic Square 7階
TEL: 03-6812-9271 FAX: 03-6812-9275
WEB: www.jta-tennis.or.jp/

※本誌中の記事、写真等の無断転載、複写複製はお断りします。

JAPAN AIRLINES



JALはMLBのオフィシャルスポンサーです。

感動は、 スポーツの 先にある。

自分を信じて、仲間を信じて、どんなに厳しい練習も乗り越えてきた。
だから、勝利のよろこびは果てしなく大きい。
そして、それは未来への強い力になる。そう、全てのスポーツは、
一人一人の感動の物語につながっている。

JALは、スポーツを頑張る
人々を応援する翼で
あり続けたいと考えます。



メジャーリーグベースボールの商標及び著作権は、メジャーリーグベースボールの許可に基づいて使用しています。詳しくは MLB.com を参照ください。

明日の空へ、日本の翼

テニスプレイヤーの エネルギー摂取に



(公財)日本テニス協会
推奨



清涼飲料水(ゼリー飲料)

リポビタン JELLY *Sports*

リポビタンゼリー Sports は
アンチ・ドーピング認証を取得しています。



詳しくは
こちらから。

